

第4学年 国語科学習指導案

1. 教材名 「無人島でくらすには」

2. 単元の目標

「無人島で暮らすとしたら、どうするか。」という話題で話し合い、自分たちの意見をまとめることができる。(話す・聞く能力)

3. 単元の評価規準

評価の観点	評価基準
国語への関心・意欲・態度	自分の考えを話したり、友達の意見を聞こうとしたりする。
話す・聞く能力	自分の考えを理由をあげながら話したり、友達の意見のよい点を捉えて聞いたりしながら、無人島でやりたいことの話し合いができる。
書く能力	友達の考えの要点を書いたり、発表の感想を書いたりすることができる。

4. 単元について

(1) 教材観

本単元は、「話すこと・聞くこと」に重点を置いた単元であり、学習指導要領の内容「ア 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと」と「ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと」に基づいて構成されている。

無人島で自分たちだけで暮らすというこの内容は、児童にとって魅力あるものである。一人一人がやってみたいことや自分の夢を膨らませ、それぞれの思いを自由に話し合わせるのに適した教材である。しかしながら、この時期の児童は、自分の考えに固執してしまうことも多く見られるため、自分の考えをしっかりと伝えるだけでなく、相手の考えを受け入れ、互いに気持ちを寄せ合いながら話し合いをまとめていくことは、意義あるものと考える。

(2) 指導観

指導にあたっては、まず、「無人島での生活」というイメージを膨らませるために、冒険物の図書や映像・体験談からとらえさせ、無人島でやってみたいことを自由にできるだけ多く発言させたい。そして、限られた条件の中でどんな道具を持って行くか、まず一人一人にしっかりと考え方をさせこだわりを持たせたい。自分が持って行きたい道具については、2種類のカード（赤カード……生活する上で必要と考える物 青カード……無人島でやってみたいことに関する物）に書き込ませ、後の話し合いに活用させたいと考える。

その後、グループごとに話し合いを行う。この段階で「みんなが納得する話し合いをしよう」というめあてを提示し、単に自分の思いを発表するだけでなく、友だちの考えを聞き、自分の考えと比べながら決定していくことを意識づけたい。

最後に、ポスターセッションを行い、各グループの発表を聞きながら感想をもらい、それをもとに自分たちの学習を振り返らせたい。

(3) 指導の実態（男子 11 名 女子 10 名 計 21 名）

本学級は、明るく、話し好きな児童が多い。自分の考えを積極的に述べる児童が増えてきているが、自分の考えを持ちながらうまく伝えられない児童や思いついで発表する児童も見られる。そこで、今年度初めの国語の単元で「こんなことしたいな」において紹介されていた、身近な出来事を発表する活動を毎日朝の会で「ニュースの時間」として取り組んできている。日頃、のびのびと自分の思いを表現できているので、学習の中でも同様に話し合うことができるようになってほしいと思う。

また、無人島へ冒険するような図書を読んだ経験がある児童は少ないため、無人島についての知識も、「人がいない島」というイメージしか浮かんでこない様子がアンケートから分かった。イメージを膨らませられるよう学習の初めの段階で、図書や映像などで無人島の様子を知らせ児童の興味や関心を高めるようにしたい。

5. 人権教育との関連

グループでの話し合い活動やポスターセッションの場を通して、友達や他のグループの無人島でのやりたいことをよく聞きメモを取りながら正しく理解させたい。

《知性》

無人島で本当に必要な物は何かを、友達の意見を聞きながら選択させたい。

《判断力》

無人島の絵や映像を見ることで、無人島での楽しい生活を想像し、自分のやりたいことをふくらませたい。

《感受性》

グループでの話し合い活動やポスターセッションの場を通して、お互いの考え方の相違に気づくとともに、自分の考えや思いを正しく相手に伝えられるようにしたい。

《表現力》

グループでの話し合い活動や、ポスターセッションの練習において、一人一人が自分の役割を自覚して自他のよさを認め合いながら協力して活動させたい。

《実践力》

6. 指導計画（7 時間扱い 本時 4 / 7）及び評価計画

時	主な学習活動	評価基準
1	1. 魔王のメッセージを聞く。 2. 無人島の絵や映像を見てイメージを膨らませる。 3. 無人島の山や川などに名前を付ける。 4. 話し合いの計画を立てる。	関：無人島での暮らしに興味をもち、進んで話し合いの計画を立てようとする。 話：魔王のメッセージから無人島で暮らすための条件を正しく聞き取ることができる。
2	1. 無人島で一週間をどのように過ごしたいか、自分なりの考えを持つ。 2. 無人島へ持つていきたい物を一人一人カードに書く。	書：無人島でやってみたいことや持つていただきたい道具を、理由をつけて書くことができる。
3	1. よりよい話し合いの仕方を考える。 2. 無人島でどのように過ごしたいかをグループの友達に紹介する。	話：無人島でやってみたいこと友達にわかりやすく紹介したり、友達の無人島でやってみたいことを正しく聞き取ったりすることができる。

4 本時	1. 7つの道具をどのような観点で話し合えばよいか確認する。	話：無人島へ持つていきたい道具について理由を付けて説明したり、友達の考えを正しく聞き取ったりすることができる。 書：友達の考えの要点をメモすることができる。
	2. グループごとに持っていく7つの品物を話し合って決める。	書：友達の考えの要点をメモすることができる。
5 6	1. グループで話し合って決まったことを発表する計画を立てる。 2. 発表の練習を行う。	関：協力し合って発表の練習を行おうとする。
7	1. ポスターセッションを行う。 2. 発表の感想をもとに、活動を振り返る。	関：協力し合ってポスターセッションを行う。 話：無人島の過ごし方や持つて行くものを分かりやすく発表できる。 書：他のグループの発表を聞き、よさをとらえて感想を書くことができる。

7. 本時の指導

(1) 題材名 「無人島でくらすには」

(2) 目 標

お互いの考え方の共通点や相違点を考えながら、グループで持つて行く7つの道具について、意見をまとめる方向で進んで話し合うことができる。

(3) 具体の評価規準

(話す・聞く能力) 無人島へ持つていきたい道具を理由を付けて説明したり、友達の考えを正しく聞き取ったりすることができる。

(書く能力) 友達の考え方の要点をメモすることができる。

(4) 人権教育の視点

無人島で本当に必要な物は何かを、友達の意見を聞きながら選択させたい。
《判断力》

グループでの話し合い活動において、自他の考え方を大切にしながら協力して活動させたい。
《実践力》

(5) 授業の観点

自分の考え方や意見をはっきり述べたり、友達の意見を大切にしたりしながら、進んで話し合い活動に取り組めたか。

(6) 展開 (別紙)

指導講評（青木稔憲 課長補佐兼教育係長）

（よかった点）

- ・ 題材は夢のあるもので興味・関心、意欲を持てた。
- ・ 話し合いの観点についての指導者の説明・例示が大変よく、児童にとって分かりやすかった。
- ・ 話し合いでは、大部分の児童が選択理由をきちんと述べて意見を言うことができていた。この理由付けができて、建設的な話し合いになっていく。
- ・ 児童の持つていきたい品物への思いが入っているかどうかという、指導者の助言がよかったです。グループの実態によって、指導者の介入が大切である。
- ・ 学習のまとめは、教師と児童の重要な部分である。全体で指摘すること、指導すべきこと、促すべきことを指導者が提示することは大切である。それが今回はできていってよかったです。

（改善点）

- ・ 司会者は、話し合いのリード、修正のためにも必要である。
- ・ 2種類のカード（生活に関する事、遊びに関する事）に分けて記入されていたので、これを生かして分けて話し合わせるとよかったですのではないか。
- ・ 指導案の授業の観点の書き方については検討すべきである。